

# 言葉の魔法

ちょっとした一言が人を変える力を持つことがある。  
迷ったときの道標になる言葉、  
ふと思い出して元気になれる言葉……。  
確かな成果を残したビジネスパーソンたちに、  
そんな言葉の魔法を聞いてみよう。

## “ ケーススタディせな、あかんと思うわ ”

これ、ある構成作家さんが本番後、僕と一緒にいた芸人さんに言った言葉なんです。「あのときウケなかったのはなぜか、本当は何と言うのが正解だったのかと場面場面で勉強しておかないと、次のときもできないよ」という話の続きで、横で聞いていてすごく印象に残った。ああ、僕がやっていることと同じだと思ったんです。

僕は、お笑いがやりたくてテレビの世界に入ったんですが、実は笑わせる能力はゼロ。ネタも書けない。でも、どうしてももっと面白くなるのか考えるのは好きで、というかお笑いが好きだから考えてしまうのだけれど、起こった一瞬一瞬の場면을放置しておけないんです。今のはこうだからダメだったんだとか、ああしたからよかったのかな？といつも理由を探してしまう。そうすると番組作りには自分の方程式みたいなものができるでしょう？

僕は、人に教わることもあるけど、どちらかという自分でみつけた方程式を試して、また考えて……を繰り返してきたんで、「ケーススタディ」という言葉を聞いたとき、このやり方で正しいと再確認しました。ヒット企画も増え始め、自信になりつつあったときに客観的な言葉が聞けて、さらにモチベーションが上がりましたね。

僕の場合、覚えているのは、そういう確信につながる言葉ばかり。芸人さんや作家さんなど、番組を面白くするという同じゴールを目指して頑張っている仲間から聞いた言葉だと、とくに重みがあるんですね。

最近も忘れられない言葉をもらいました。去年「アメトーク！」で初めて仕事させていただいた明石家さんまさんの一言。「雨上がり決死隊」の蛭原徹さんが、教えてくれたんです。番組後の食事で僕のこと、「あいつお笑いバカやな〜」って言っていたと。最高にうれしかったですよ、憧れていたお笑いの頂点に立つ方にそう言ってもらえるなんて。僕が15年間やってきたことは間違っていなかった。ブレずにやってきてよかったです。



人気お笑い番組「アメトーク！」

演出・プロデューサー

### 加地倫三氏

テレビ朝日 編成制作局 制作1部

Rinzo Kaji\_1992年上智大学卒業後テレビ朝日に入社。スポーツ局を経て1997年「ナイナイナ」「リングの魂」などのお笑い番組ディレクターに。現在は演出・プロデューサーとして「アメトーク！」(MC/雨上がり決死隊)、「ロンドンハーツ」(MC/ロンドンブーツ1号2号)を担当。自らの企画である「アメトーク！」は、現在番組DVD120万枚突破の人気番組に。このほか単発番組に「もしも…さんまさんだったら？」「ザキヤマが来るーっ!!」など。